

論 語

『論語』は孔子の弟子たちによって編纂された、儒教の経典です。『大学』『中庸』『孟子』とともに「四書」の一つに数えられています。

その説くところは日常生活に即した実践的倫理であり、孔子の思想を最もよく伝えています。

『論語』が生まれた時代背景

孔子が生きた春秋時代の中国は、各地で領土を奪い合う、まさに群雄割拠の時代でした。

孔子は、そんな世を憂いて、人間愛としての「仁」、心の主張としての「忠」、そして、親への「孝」、年長者への「悌順」などを説きました。

また、利欲を離れて自己を完成させる「学」の喜びなども述べています。

日本人と論語

『日本書紀』によれば、『論語』が日本に伝わったのは、応神天皇16年(285年)、百済から伝来したといわれています。そこから徐々に広まり、平安時代には漢籍の一つとして貴族の間で読まれていました。

その後、日本で儒教が正式な学問として確立したのは江戸時代になってからです。第五代将軍徳川綱吉の時代には、儒学講義の場として湯島聖堂が建立され、近代教育発祥の地とされています。